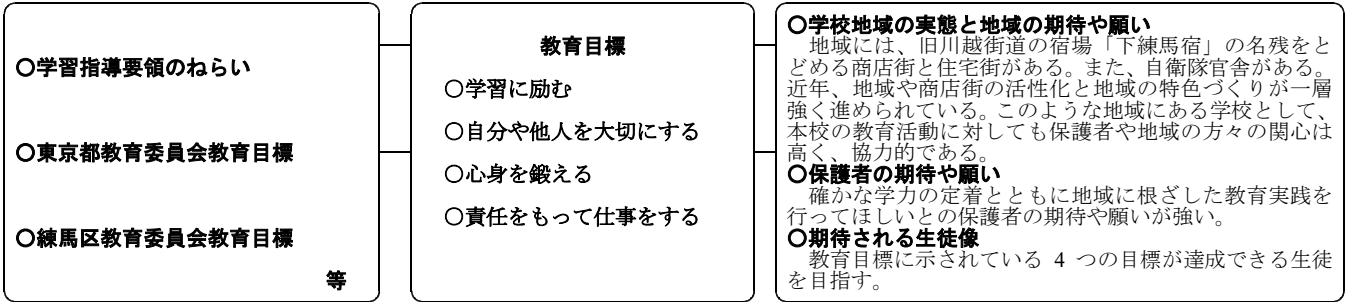


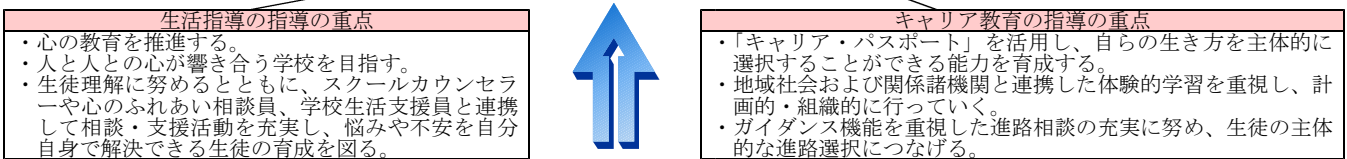
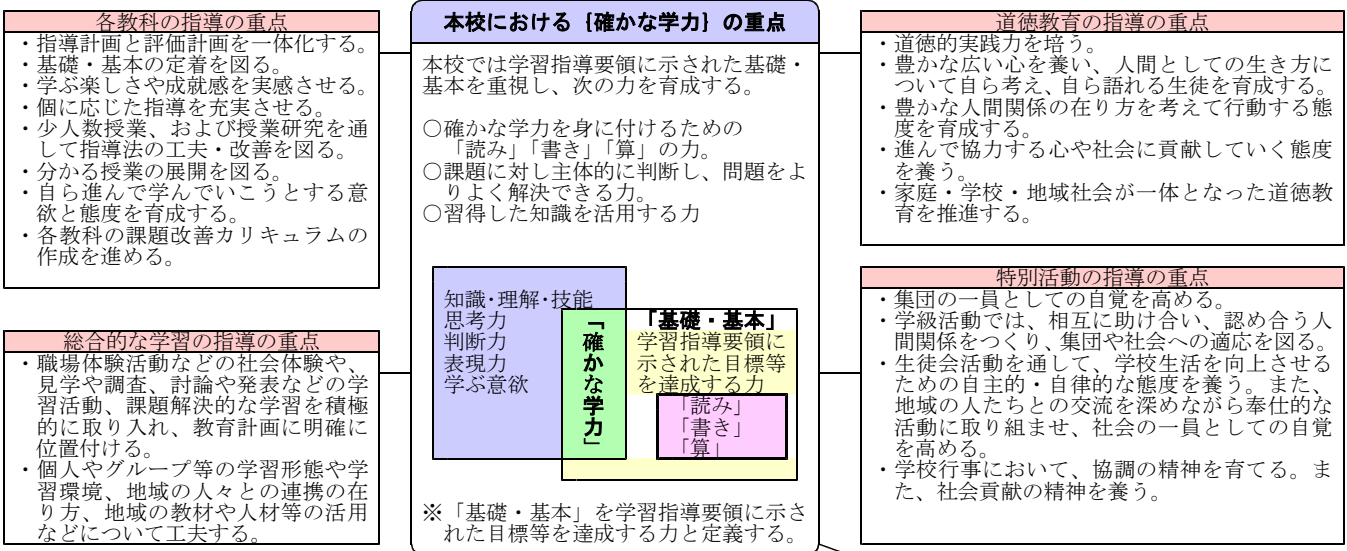
令和2年度 学力向上を図るための全体計画

本校の生徒の学習状況や教員の指導上の課題の分析を行い、全体計画と各教科の授業改善策を作成し、実施・検証・改善していく授業改善サイクルを確立することで、生徒の学力向上を推進する。各教科の授業改善の取組の検証を教員による自己評価、生徒による授業評価、学校関係者による評価により行い、次年度に向けて、授業改善の方法や具体的な方策について見直す。また、学びの連続性や系統性に視点を置き小・中連携による学習指導の在り方を見直す。



学校経営計画（学力向上に関わる具体的な指針）

- ・生徒の主体的、対話的で深い学びを実現させる授業改善を行い、言語活動を充実させるとともに、思考力・判断力・表現力を伸ばす。また、ICT機器を効果的に活用して、基礎・基本の定着を図る。
- ・学年の実態に応じて、学力補充指導を充実させ、自ら学ぶ意欲を高める。定期的に家庭学習強化期間を設け、家庭学習の習慣を定着させる。
- ・「数学」、「英語」の少人数授業など、各教科が工夫して、個に応じた授業を計画、実践する。



| 本校の授業改善に向けた視点 | | | | | |
|---|--|---|--|---|--|
| 指導内容・指導方法の工夫 | 教育課程編成上の工夫 | 校内における研究や研修の工夫 | 評価活動の工夫 | 家庭や地域社会との連携と工夫 | 小中一貫教育の視点 |
| <ul style="list-style-type: none"> ○思考力・判断力・表現力を高めるよう主体的で対話的な深い学びを行う授業改善を図る。 ○数学科、英語科では、少人数授業の指導方法を工夫し、生徒の実態に即した授業を行う。また、国際化社会を見据え、実用的な英語学習を推進し、ALTの有効活用を努める。 ○ICTを活用した授業を積極的に取り入れ、生徒一人一人を生かすわかりやすい授業の工夫と改善を目指す。 ○特別な支援を要する生徒を把握し、該当生徒の特性に応じた充実した指導ができるような体制をつくる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○学習の土台になる『読み』への関心・意欲を高めるために「朝読書の時間」を設ける。 ○定期テスト前にモジュールの取組を計画的に実施することで、基礎的・基本的な学力の向上を図る。 ○給食ありで土曜授業を実施し、授業時数の確保をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ○「主体的、対話的で深い学び」の中で生徒一人一人の豊かな学力向上を育む」に基づき4回の校内研修、研究授業を実施する。 ○授業者が授業を自己点検し、課題を明らかにし、教科部会等で研究を深める。 ○配慮を要する生徒の情報を共有し、基本的な学習習慣の定着を図り、一人一人の個性や能力を伸ばす指導法の研修を進める。 | <ul style="list-style-type: none"> ○生徒に確かな学力を身に付けさせるために、指導と評価の一体化を図る。 ○生徒の自己評価、学力調査の結果などを生かし、生徒の学習状況を客観的に把握する。 ○指導や評価方法を改善し、評価の信頼度を高める。 ○教育実践を通して、各教科の評価計画の見直しを行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習強化月間を設定するなどして、家庭学習を定着させる工夫をする。 ○感染症予防を行いながら、学校行事などを通して、家庭や地域社会との連携を図る。 ○家庭や地域の協力を得て、職業調べなどを行い、進路学習を充実させる生徒の学習に対する意欲を高める。 | <ul style="list-style-type: none"> ○研究組織を構築し、小中の合同研修会を行い、研究協議などを通して授業改善を図る。 ○「保健体育」の課題改善カリキュラムの実践検証を行う。また、課題改善カリキュラムの研究推進教科として「英語」を新たに加える。 |

授業改善策の検証方法
 全国・都・区の学力調査、定期考査、生徒・保護者アンケート、学校関係者評価、生徒観察を基に、教科部会で改善策を検証する。